

## 短期留学プログラムの語学力的効果:

TOEIC Bridge 及び TOEIC スコアによるリスニング能力向上についての検証  
Effects of Two-Month Homestay Program on improvement of English ability on the  
TOEIC Bridge test and the TOEIC IP test

千葉 克裕 (桜の聖母短期大学)

## 1. 研究の目的

桜の聖母短期大学では英語学科 1 年生を対象に 2 ヶ月間の北米ホームステイプログラムを実施している。平成 6 年より始められたプログラムも平成 16 年度で 11 回を数える。それぞれの年度において参加者の帰国後の英語学習への取り組み態度には好ましい変化が見られることが多いが、信頼性のあるテストによりプログラムが及ぼす英語力への効果が客観的に検証されることは無かった。本研究では 1 組 (2 ヶ月プログラム参加者 70 名) および 2 組 (国内学習者 41 名) の学生に入学時 (4 月) 及び 2 ヶ月留学終了時 (7 月) に受けさせた TOEIC Bridge のスコアにより 2 ヶ月留学プログラムの効果を統計的に検証するとともに、帰国後約 4 ヶ月目に受験した TOEIC IP テストのスコアによりその持続性を検証する。本研究では客観性が高く、信頼度も高いとされる TOEIC Bridge や TOEIC のスコアを統計的に比較・検証することで 2 ヶ月間のプログラムが学生の英語力向上にどのような影響を及ぼしているかを明らかにしたい。

## 2. 研究の方法

本研究のデータは 16 年度英語学科入学生の入学時および 2 ヶ月プログラム終了時に学内とカナダで同時に受験させた TOEIC Bridge IP テストのスコア及び 11 月に受験させた TOEIC IP テストのスコアを用いている。分析方法はそれぞれの総合点、リスニング・リーディングのセクション毎のスコアによる平均点の差の検定 (t-検定; 対応なし)、及びクラスごとに総合・リスニング・リーディングの平均の差 (伸び率) の検定 (t-検定; 対応あり)、クラスごとの 4 月・7 月それぞれのリスニング、リーディングの相関係数の比較を行った。また 7 月に測られた英語力が一時的なものか継続的なものかを確認するために 11 月の TOEIC IP テストスコアのセクションごとの平均の差を検証した。

## 4. 結果及び考察

入学時の TOEIC Bridge のスコアは、総合点・リスニング・リーディングの各スコア共に平均の差に有意差は見られず 1 組と 2 組ともにほぼ等質な集団であり入学時の TOEIC Bridge のスコアに見る英語力はほぼ等しいということが出来る。(表 1 参照)

7 月の 1、2 組のスコアの平均の差を両側検定の t-検定により検討した結果は、総合点では  $p=.512$ 、リーディングセクションでは  $p=.196$  と有意差は見られなかったが、リスニングセクションにおいては  $p=.003$  と 1%水準の有意差を見せた。また、各組ごとにリスニングとリーディングの 4 月と 7 月の差を t-検定 (対応あり) により検討した結果、2 組は両方とも統計的に有意な差を示す得点の増加を見せたが、1 組はリーディングセクションで  $p=.329$  と有意差が現れなかった。このことは、1 組で得点が上昇しているものの割合が 2

9月9日(金) 研究発表2 第3室(340)

組に比べて低だけでなく下落している学生の割合が70人中25人(35.7%)と高い割合を示していることも一因であろう。これは、学生の多くが日常生活の中で言語的にも異文化への適応という点においてもサバイバルにそのエネルギーの大半を費やしているため、リーディングやライティングの授業の予習や復習への学習時間の確保がされにくい現状を反映しているためと考えられる。

表1 4月・7月(Bridge) 11月(TOEIC IP)得点(平均点)状況

|     | 1組     |        |        | 2組     |        |        |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|     | L      | R      | 総合     | L      | R      | 総合     |
| 4月  | 63.60  | 61.83  | 125.43 | 62.63  | 59.95  | 122.59 |
| 7月  | 72.29  | 62.69  | 134.97 | 67.74  | 65.18  | 132.92 |
| 増減  | 8.69   | 0.86   | 9.54   | 5.11   | 5.23   | 10.33  |
| 11月 | 245.72 | 131.30 | 377.03 | 218.85 | 143.33 | 362.18 |

11月のTOEICのスコアは総合点で1組が15.5点上回っているが、平均の差の両側t検定の結果は $p=.336$ と有意差は見られなかった。また、リーディングセクションは2組が12点ほど上回っているが、 $p=.336$ とやはり統計的有意差は見られない。しかし、リスニングセクションでは1組が平均26.85点、有意確立で $p=.005$ の有意差を示した。

帰国後はいずれの組も学内において全く同じカリキュラムで学習していることを考えると11月のリスニングスコアを見る限り、2ヶ月間の海外生活で獲得したリスニング能力は4ヵ月後でもその差を維持していると考えられる。

以上の結果から2ヶ月間の海外ホームステイは、リーディング能力にはほとんど影響を及ぼさなかったが、リスニング能力の向上には顕著な効果を示したといえよう。

注：統計処理にはSPSS V.12(日本語版)を使用した。